

Ⅱ. 日本人間工学第 47 回総会議事録

日 時：平成 18 年 6 月 10 日（土）12：50～13：50

場 所：大阪市立大学全学共通教育棟

出席者：正会員 101 名、委任状提出正会員 812 名

審議事項

- 第 1 号議案 平成 17 年度事業報告(案)の件
- 第 2 号議案 平成 17 年度収支決算書(案)の件
- 第 3 号議案 平成 17 年度監査報告の件
- 第 4 号議案 平成 18 年度事業計画(案)の件
- 第 5 号議案 平成 18 年度収支予算(案)の件
- 第 6 号議案 次期大会長(平成 19 年第 48 回大会)の選任の件

表彰事項

- 第 1 故秋田宗平理事・国際協力委員会委員長への特別感謝状授与
- 第 2 大島正光賞の授与
- 第 3 人間工学会研究奨励賞の授与

報告事項

- 第 1 人間工学会第 47 回大会について
- 第 2 人間工学会第 48 回大会開催(案)について
- 第 3 その他

冒 頭： 第 47 回定期総会の開始に先立ち、日本人間工学会長大久保会長から、理事現職で
ご逝去された故秋田理事を悼み、全員起立のもと黙想を発声。会長から故秋田先生
の当学会における活動、特に IEA 国際人間工学会についての永年にわたる活動の業
績を紹介され、次いで臨席された故秋田先生夫人に特別感謝状が授与された。
秋田夫人からは、先生の間人工学に関する並々ならぬ関心と傾倒の様子を紹介されて
特別感謝状への謝辞を述べられ、総会出席者の盛大な拍手のもと退席された。

司 会： 斉藤副会長司会のもとに、恒例により総会議長に大久保会長を推薦し、会場の総
意により議長に指名された。

大会会長挨拶： 岡田第 47 回大会会長が挨拶され、午前の時点で既に 470 名超の参加者がある旨と
併行しての日韓シンポジウム等の紹介があった。

大韓人間工学会会長挨拶

韓国人間工学会 李東春先生（韓国東亜大学 工学博士）から、第 47 回大会及び
日本での日韓共同シンポジウムの盛会への謝辞と日本人間工学会の益々の発展を
期待する等の挨拶があった。

学会長挨拶： 大久保会長より、定期総会開催挨拶と日本人間工学会 47 回大会会長及びスタッフへの謝辞のあと当人間工学会の活動の重要性と当面している取組むべき重要課題等についての報告と照会がされた。**(大久保会長の挨拶要旨は冒頭参照)**

定足数報告： 第 47 回定期総会の定足数(人間工学会運営規則第 22 条:正会員の 1/5 以上～委任状含む)について、総務担当幹事から以下を説明。

会員の現在数(5 月 31 日現在)

正会員数 1911 名

出席者数 96 名

委任状提出数 881 名 出席者総数 977 名

以上により議長は定足数 383 名を超える出席となっており、本総会は成立することを宣言。

議 題

I. 審議事項

第 1 号議案 平成 17 年度事業報告(案)の件

谷島総務担当理事が急な公務による欠席のため、阿久津総務副担当理事が、平成 18 年度総会資料に基き、

平成 17 年度の事業活動実績を以下の諸活動組織ごとに報告し、審議のうえ原案通り承認された。

1. 会勢報告(会員の入退会等の会員異動状況)
2. 担当・委員会活動実績
 - (1) 広報担当、日本学術会議担当
 - (2) 社団法人日本人間工学会推進委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159 国内対策委員会、人間工学 JIS 委員会、ユーザビリティ委員会、表彰委員会、安全衛生における人間工学要求事項委員会
3. 支部活動実績(7 支部)

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州
4. 研究部会活動実績(12 部会)

特殊環境人間工学研究部会、モバイル人間工学研究部会、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、海上人間工学研究部会、ジェロンテクノロジー研究部会、口と健康部会、情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、

なお、モバイル人間工学研究部会は学会内規により、平成 17 年度を以って 5 年間にわ

たる研究活動を終了することになった。

5. 認定人間工学専門部会

第2号議案 平成17年度収支決算書(案)の件

外山財務副担当理事が、平成18年度総会資料に基づき、同収支決算書(案)について説明。昨年に引き続き、今年度も単年度収支では赤字決算となっていること、したがって今年度からの正会員会費の値上げの必要性のやむを得ない状況を裏付けるものとなっていることを説明。

審議のうえ原案通り承認された。

第3号議案 平成17年度監査報告の件

真壁監査から、平成17年度の業務運営とその処理及び収支会計の処理整理に関する監査結果について、適切・正確であることを認めるとの報告があり、斉藤監査及び真壁監査連名の監査意見書が原案通り承認された。

第4号議案 平成18年度事業計画(案)の件

総務副担当阿久津理事が、平成18年度総会資料に基づき、平成17年度における事業計画(案)を下記の活動組織ごとに説明し、審議の結果原案通り承認された。

1. 担当・委員会活動実績

(1) 広報担当、日本学術会議担当

(2) 社団法人日本人間工学会推進委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、人間工学JIS委員会、ユーザビリティ委員会、表彰委員会、安全衛生における人間工学要求事項委員会

2. 支部活動実績(7支部)

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州

3. 研究部会活動実績(11部会)

モバイル人間工学研究部会、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、海上人間工学研究部会、ジェロンテクノロジー研究部会、口と健康部会、情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、

前記のとおり、モバイル人間工学研究部会は平成17年度を以って終了し研究部会11部会となった。

4. 認定人間工学専門部会

第5号議案 平成18年度収支予算書(案)の件

小木財務担当理事が公用による海外出張のため外山財務副担当理事が、平成18年度総会資料に基づき、平成18年度の収支予算書(案)について説明し、特に今年度から正会員会費の値上げがあり財務の収支がやや好転した内容となっていること。また、今年から収入・支出予算書の様式を国の指導する公益法人会計基準に準拠したものとし、事業費の収

入支出構造が理解しやすいものとなっていることなどを説明。審議のうえ原案のとおり承認された。

第 6 号議案 日本人間工学会第 48 回大会長の選任の件

第 48 回大会長には、内定していた名城大学福田康明教授の就任が正式に決定。

(以上第 1 号議案・第 3 号議案・第 5 号議案は、平成 18 年度総会資料を参照のこと。)

表彰事項

平成 18 年度の表彰は、表彰委員会小町谷委員長が公務による海外出張のため、四宮副委員長が表彰理由を説明した後、以下の論文及びその著者に対して授与された。

第 1 大島正光賞

平成 18 年度の受賞者は牧下 寛・松永勝也氏で、論文名「心理的負荷が運転中の反応時間に与える影響」(人間工学第 41 巻第 4 号掲載)である。受賞者を代表した牧下 寛氏に対して、大島正光名誉会長の代理大久保会長から賞状及び副賞が授与された。

第 2 日本人間工学会奨励賞

平成 18 年度の受賞者 2 件であり、各受賞代表者の中川千鶴氏及び土井幸輝氏に対して大久保会長から賞状及び副賞が授与された。

- 1) 受賞者名は中川千鶴・鈴木浩明氏で、論文名「列車振動がパソコン作業に及ぼす影響と最適なテーブル位置の検討」(人間工学第 41 巻第 3 号掲載)
- 2) 土井幸輝・小田原利江・林美恵子・藤本浩志の各氏、論文名「ナイロン布を用いた UV 点字の識別容易性評価に関する研究」(人間工学第 41 巻第 5 号掲載)

以上